



週報

【No.620 2014/1第2例会】

例会日：毎週金曜日

例会場：碧海信用金庫本店3F

安城市御幸本町15-1

TEL: 0566-75-8866

FAX: 0566-74-5678

Email: anjo-rc19580206@katch.ne.jp

HP: <http://www.anjo-rc.org>

第2761回例会

2014年1月17日(金) 12:30～13:30

司会者：野村 繁雄君

ソング：「手に手つないで」「四つのテスト」

卓上花：千両・スイトピー

ゲスト及びビジター：石川徳重様 たいよう(株)



2013-2014年度RIテーマ：

「ロータリーを實踐し、みんなに豊かな人生を」

安城ロータリークラブ会長方針：

「充実したロータリーライフを楽しもう。」

■会長：都築 雅人

■幹事：神谷 研

■クラブ会報：青山竜也・川合昭道・加藤英明

■創立日：S33年1月10日

■RI加盟認証日：S33年2月6日

■会長挨拶

都築 雅人会長

《あいさつ》

1/10 第7回 理事会

議題

- ・上半期会計報告
- ・その他

山口佳久君から、出席義務規定免除申請が提出された。・・・承認

【ロータリー3賢人】を紹介します

1905年にシカゴ・クラブが創立され、その後、第二次世界大戦頃までに国際ロータリーの基礎ができた。ロータリーの綱領(目的)、奉仕の理念、四大奉仕部門、四つのテストなどを作った先達を紹介します。

チェスリー・R・ペリー (1872～1960)



ポール・ハリスによりロータリーの建設者と呼ばれた。1908年、シカゴ・クラブに入会。後に初代RI事務総長となり、32年間事務総長を務めた。職業奉仕の重要性を強調し、初期のロータリーの組織化に大いに貢献した。

アーサー・フレデリック・シールドン

(1868～1935)



1910年、ロータリー初の大会で「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という標語の原型の言葉を掲げた。この標語は1950年のデトロイト国際大会で承認された。ビジネスはすべて社会に尽くす手段でなければならぬ、という信念とともに生きた。



ベンジャミン・フランク・コリンズ

(生没年不詳)

1911年のポートランド国際大会で、他人のために尽くすことの意義と重要性を説き、ロータリー・クラブは「Service, not self(無私の奉仕)」を根本精神としなければならない、と強調した。

これが、その後、修正されて、1950年のデトロイト国際大会で、標語「超我の奉仕(Service Above Self)」として認められた。

【他の先達】

ハーバート J.テラー (1893~1978)



職業奉仕にふさわしい職業倫理として、「四つのテスト」の創案者。その後、改変されて、現在の「四つのテスト」になった。

アーチ・クランフ (1869~1951)



ロータリー財団の創始者。1917年のアトランタ国際大会での提案から「ロータリー基金」という名前でスタートし、1928年のミネアポリス国際大会で「ロータリー財団」として認証された。

この5人が国際ロータリーの基礎を作ったと言われる。

【1月のクラブ内例会・委員会予定】

24日 卓話担当 寺田孝司君

テーマ「次男寺田真二郎(料理研究家)」

31日 卓話担当 磯貝廣治君 中部日本研修センター 研修生(2012年入国) 家政

MS. TUNHAY CATHERINE NARANJO (カテリーン)様 出身国 フィリピン

テーマ「オイスカと私」

同伴者 中部日本研修センター 所長 村松 明(むらまつあきら)様

* 次年度理事会

《1月の行事予定・地区会議》

22日 三河安城ロータリークラブ創立15周年記念例会 12:30~ 都築会長 神谷幹事

■ 幹事報告

神谷 研幹事

- ・例会終了後会議室にてクラブアッセンブリーを行います。
- ・本日新年会、川本にて行います。
- ・米山記念奨学会より当クラブへ、感謝状が届いております。(第32回米山功労クラブ)

会員	60名
出席義務者	46名
出席	34名
欠席	12名
出席免除者の出席	14名
出席率	80.0%
修正出席率	12月22日 第2759回 100%



◆年男放談(午年)

勝見乙平君

横山真喜男君

「年男放談」 勝見乙平

私、先月、12月18日に腸閉塞のために緊急入院して、同日、直ちに緊急手術を受けました。手術後にお聞きした主治医からのお話では、「来院が明日になっていたら、夜中に、陥頓して首を絞められて膨れ上がっていた小腸が破裂して、大変なことになっていました。今日、緊急受診されて本当に幸運でした」とのことと、本当に命拾いでした。12月30日に退院しましたが、帰宅した時は、体重が4キロも減っていて随分痩せてしまいました。体力が随分落ちてしまって、まだ少々辛いので、申し訳ありませんが、腰掛けさせて頂きませぬ。

さて、本日は年男放談ということで御指名を受けたのですが、既に83歳になりましたので、「年男」と言うよりも「年ジヤサン」と言うべきかも知れませぬ。折角の機会なので、暫くお時間を頂戴いたします。

私が当クラブへ入会させて頂きましたのは、昭和46年6月、41歳の時でした。月日が経つのは早いもので、あっという間に42年が過ぎ去って、現在では昭和一桁生まれの会員は私一人になってしまいました。私よりも年上の会員としては、唯一人、大正14年生まれ、鈴木福美(ふくみ)さんがいらっしゃいますが、常時出席の会員としては、私が最高齢の会員となってしまった訳です。

この42年を振り返ってみますと、ロータリークラブは、内外ともに随分変わって来ました。私が入会させて頂いた当時は、厳しい先輩が何人もおられまして、その代表格が歯科医師の鈴木和雄先生でした。私よりも10歳ほど年上の方で、機会がある度ごとに、ロータリーの在り方について教えて頂いたり、読んでおいた方が良い本を紹介して頂いたりしました。

本日は丁度良い機会なので、その内3冊を持参しました。1冊目は皆様よく御存じの「手続要覧」であります。これは国際ロータリーの公式刊行物の日本語版で、毎年10月頃に改訂版が出版されており、事務局へ頼みますと2000円位で取り寄せて頂けます。私は数年毎に買い替えており、現在、自宅には新旧合わせて10冊程あります。残っている中で最も古いものは昭和48年版で、最新版は2010年、平成22年版ですから、今年辺りが買い替えの時期になります。

手続要覧の内容も、年と共に大幅に変更されておりますので、矢張り時々買い替える必要があります。国際ロータリーの規約とか、物事の考え方などを記載した本で、300頁位のもので、当安城クラブの定款・細則・内規を記載した冊子が20頁位のもので、それに比べれば随分と詳しい本、ということになります。

先輩からは随分と厳しい内容の様に教えられたのですが、実際に読んでみますと、「で、なければならぬ」と言った断定的な記載は非常に少なく、「会員身分に関する規定」辺りが厳しい方の代表だと思えます。しかし本書の殆どの項目では、「こうした方が良い」とか「この様に推奨されている」といった穏やかな表現になっております。例えば、出席率が不良の会員に対する「自動的退会規定」の項でさえも、「柔らかな表現」で書かれております。

皆様が上着の襟に付けておられるロータリーの会員バッジにつきましても、手続要覧では「自分の役職を示す様な特殊なバッジの禁止規定」の項の規定は、「ロータリークラブには相応しくない」という穏やかな記載になっております。ですから、当クラブでも毎年引き継がれている「会長バッジ」がありますし、国際ロータリーでも「役員バッジ」が存在している位です。つまり、手続要覧の記載事項というものは、この程度の参考

事項として理解しておいた方が良さそうなのであります。ただ、色々な所で口に出して話される場合には、それが随分と断定的な規定の様に表現されることが多いので、一寸、困るのであります。但し、これは「だから手続要覧など読む必要はないのだ」と言う訳ではなく、私は、「ロータリアンとしては、矢張り読んでおいた方が良い」、むしろ「積極的に読むべき本だ」と思っております。

ただ、私ども日本のロータリアンが、ロータリークラブとしては当たり前のことだと思っている制度なのに、手続要覧には全く書かれていないこともありますので、戸惑ってしまいます。例えば「卓話」とか「ニコボックス」が良い例であります。こう言った事項が記載されている本としてお勧めしたいのが、この2冊目の前原勝樹さんの「ロータリー入門書」と、3冊目の小堀憲助さんの「ロータリークラブ、その理論と実態と批判」であります。

前原さんは、前橋ロータリークラブ出身の有名なバストガバナーです。平成3年に既に亡くなられておりますが、前橋クラブでは独自の委員会を編成されて、現在に至るまで改訂作業を続けておられます。小堀さんの本は初版が昭和43年、私が持っているのは昭和48年の第7版であり、現在は既に絶版になっていると思います。ただ、この二冊とも、当クラブの書庫には残されている筈です。いずれの本も、内容的に非常に優れた本なので、是非、お読みください。

「卓話」については、前原さんの方では「プログラム委員会の項」に、小堀さんの方では「第2章、ロータリークラブとその組織」の中の後ろの方、第7版では97、98頁に書いてあります。何れも「卓話は、本来、外来者よりも本人自身が話すもの」という趣旨で解説されていることに御注目ください。私も、当クラブでは、機会がある毎にその趣旨でお話して来た心算です。

ニコボックスの項では、その寄付金は予算化することなく、社会奉仕の事業に充当すべきことが解説されています。この二つの項目は、何時の頃からか一般の見解が変わって来た様ですが、これが日本のロータリーの古からの統一見解の様に思えてなりません。皆様、一度よく考えて頂けると有難く存じます。

時間も大分経ちましたので、以上で私の話を終わらせて頂きますが、今後とも宜しくお願い申し上げます。



「年男放談(煙草と私)」 横山真喜男

私が初めて、意識して煙草を吸ったのは二十歳の誕生日が過ぎた大学2年の夏休みです。

ドラゴンズと煙草

安城に帰省をしております、どうゆう訳か好きでもない野球を親父のクルマの中で聞いていた時です。きっと、クルマを借りて遊びに行った帰りでしょう。巨人戦で確かマーチンという外国選手が最終回にトンネルのエラーをして逆転さよなら負けになってしまったという記憶があります。ドラゴンズファンと言うほど好きでも無いのですが巨人だけは嫌い、他のどの球団に負けてもそれ程悔しくはないのですが巨人だけには負けてはイカンのです。ふと、クルマのフロアを見てみますとショートホープの箱が落ちています。親父は煙草を吸いませぬので友人か誰かが落としたものでしょう。中に数本残っています。ヤケ酒やヤケ喰いは聞いたことはありますが、ヤケ煙草というものがあるかどうかは知りませんがなぜか煙草を吸ってみようと考え実行してみました。友人の中には煙草を吸っているモノもいたので、キンギョのような吸い方は女々しいという考えを聞かされていました。そこで、吸ってから深呼吸をしました。どのようになったかはご想像に任せます。この時から自分と煙草の付き合いが始まりまして、しばらくはチェリーという銘柄を吸っていましたがハイライトを経てショートホープの愛好家に最終的にはなりました。

根性焼き。

大学時代、数人で後輩のアパートで酒を飲んでいるときでしたが後輩と同時に灰皿へ手を伸ばし、私の煙草の火が後輩の手の甲に一瞬触れました。するとえらく熱がり騒いだので、酔いもあり、煙草の火ぐらいでギヤァギヤァ言うなど自分の煙草の火を自分の手の甲に押しつけて消しました。すると熱いのなんの途中で止めるわけにもいかず涙をこらえて消えるまで押しつけていました。すると手の甲に直径1cmぐらいの火ぶくれが出来馬鹿な事をしたと後悔しました。40年近く過ぎますがまだ火傷跡は残っています。

初めての禁煙

初めての禁煙は23歳の頃であります。その禁煙も2年半で崩れてしまいました。桜井にあったスナックへ呑みに行った時です。あきらかに未成年、下手をすると高校生ぐらいの女の子が煙草を吸っていましたので、喫煙を咎めました。おかしいのですが、横山の判断基準は狂っているのですが飲酒は注意せず、喫煙を注意しました。すると彼女曰くおじさん(まだ25歳)煙草も吸えんの?ここでまた、カチンときまして、止めていた煙草を2年半ぶりに吸いました。旨いこと旨いこと。それが一回目の禁煙でした。

火災現場での喫煙

消防団を長くやっていた自分の判断基準のなかに、火災の時は消えるまでは煙草は厳禁だという基準を持っていました。火災で出動して、野次馬が煙草を吸っているとよく注意しました。ある火災での出来事、いつものように鎮火前に煙草を吸っている野次馬を注意し、現状を現場本部の団長に報告しにいったところ、そこには、煙草を上手そうに吸っている大先輩のK団長が。

煙草で喧嘩に

数年前のこと、中国文化研究会の会合を終え、南名城駅に行った時、プラットホームで煙草を吸っている40ぐらいのお兄ちゃんが居ました。いつもの正義感?お節介でつい言葉が出てしまいました。「終日禁煙だよ。」するとお兄ちゃん、「それがどうしたんや。」と返します。やめとけばいいのに売られた喧嘩は買わなきゃ男がする。「迷惑なんや。」「おっさん、誰にモノ言っとる。」「おめえだ。」「なにー、おっさん、どこまで行くダ。」言わなきゃいいのに、「桜井だ。」「おれも桜井だ、逃げるなよ。」回りに居た数人の電車待ちのお客はじりじりと離れて行きます。電車の中は向き合って座りにらめっこ。目をそらしたら負けだ。後は想像にお任せします。

二度目の禁煙(最後の一本)

最後の一本はロータリーに入会する4日前の2002年7月29日月曜日の夕方。いつもはショートホープをカートンで買い、クルマの中に置いておきます。行きつけのガソリンスタンドへ給油洗車に行った時、胸のポケットにはショートホープ1本だけ、もう1箱もって降りようとダッシュボードを開けてみたら在庫ゼロ。帰りに買おうと待合に入ると、そこに同級生が、「やあ久しぶり」と最後の一本に火をつけると彼が、「お前まだ煙草吸ってるの?おれは健康の為止めたよ。」「なにーお前に言われたくないや、お前は中学の時から吸ってたじゃないか。」「健康の為、チャンチャラおかしいや。」と思いながら最後の一本を済ませガソリンスタンドを後にしました。その時、ふっと悪魔のささやきが。買い置きも無くなり、せっかくの機会だから、チャレンジしたら。てなことで、吸いたくなるまで禁煙と決めました。不幸にも数日後にロータリーの入会を控え緊張のせいも、吸いたい欲求がありません。四日が一週間になり、一週間が一カ月。いっこうに吸いたくなりません。そうこうしてるうちに3ヶ月、ここまで来ると吸いたくなるまで禁煙との約束決断を反故し、横山真喜男は煙草をやめず、に方向転換。以後五年ぐらいは煙草を吸っちゃった夢を見ますが禁煙続行中、11年と半年禁煙続行中です。

喫煙家の皆さん、周りに居る大事な家族、友人知人の健康の為に煙草止めましょう。

